

環境啓発施設視察記録集

(1) 港区エコプラザ

◆施設概要

- ・平成20年開設
- ・所在地 港区浜松町1-13-1
- ・開館時間 9:30~20:00
- ・休館日 第4月曜日、年末年始
- ・管轄 港区



◆設置目的

港区の歴史や文化を通じて、さまざまな団体の取り組みから「環境」を再発見し、集い合い、学び合い、教え合う場所。「低炭素社会」、「自然共生型社会」、「循環型社会」の3つのキーワードをテーマに、身近なエコ活動から地球規模のテーマまで、幅広く紹介したり、体験したり、学習したことを発表したり、子ども、大人、企業や団体も含め、楽しいエコ発信基地として整備。

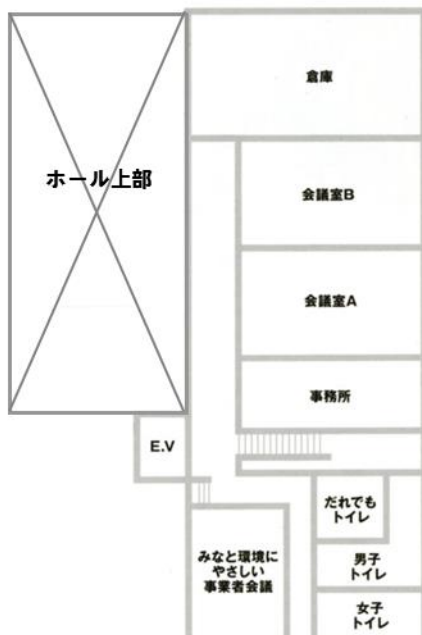
1F 案内図

1F GUIDE CHART



3F 案内図

3F GUIDE CHART



◆運営

- ・運営主体 株式会社キャリアライズ（←毎日アースデイ株式会社）
- ・運営形態 指定管理（5年）
- ・運営費 委託費は年間約7000万円

◆施設の機能

啓発・学び・交流

イベント、セミナー、講演、ワークショップ／図書コーナー／会議室の貸出
ビオトープ／間伐材・ダンボール家具等の採用

◆施設の様子



▲サーチングルーム
（図書コーナー）



▲ラーニングコーナー
（パネル展示）



▲ビオトープ

◆参考になったポイント

- 内装に間伐材を使っており、木の香りがした。
- 7000万円の運営費を考えると、武蔵野市には程遠いと感じたが、みんなが集まる場所として取り入れられたらと思う。
- 外の風車や、ビオトープなど、子供から大人まで興味を持てるものだった。
- 区民というより、働いている方が帰りによる施設のように思った。デザインも優れていて、人が来るように工夫されていた。
- 会議室は登録制で無料で貸しているようであった。
- 体験や設備は飽きられてしまうので用意せず、企画で勝負していた。
- 椅子も壁に納めることができ、無駄が無いなと思った。
- 会議室が3つに分かれていて、そのそれぞれの壁を収納して一つの大きな部屋になるということは、便利だと感じた。

(2) エコにこセンター（多摩ニュータウン環境組合リサイクルセンター）

◆施設概要

- ・平成 14 年開設
 - ・所在地 多摩市唐木田 2-1-1
 - ・開館時間 10:00~17:00
 - ・休館日 月曜日
 - ・管轄 多摩ニュータウン環境組合
- ※清掃工場併設



◆設置目的

資源循環型社会を目指して、市民、事業者、行政が一体となって、環境やリサイクルについて考え、不用品、再生品の「捨てない工夫」、「活かす工夫」、「使う工夫」、など資源の流れを尊重した環境に優しい生活習慣を身につけていくための活動拠点。市民が何時でも集い、互いに交流し合い、リサイクルに関して、楽しく学習し、実践を通じて意識の高揚、啓発を図り、新しい生活文化を育む「地域活動型施設」として建設された。



◆運営

- ・運営主体 特定非営利活動法人東京・多摩リサイクル市民連邦（家具の修理・清掃はシルバー人材センターへ委託）
- ・運営形態 管理委託（5年間の長期継続契約）
- ・運営費 委託費は年間約1,600万円（うち人件費約1,200万円）
- ・運営理念 生活者市民、行政市民、企業市民、リサイクル企業、市民、教育研究者市民が「市民」という概念で連携し、五位一体（ごみいったい）となって循環型社会をつくっていくことを目的とする。

◆施設の機能

リサイクル・ごみ減量

リサイクル家具・自転車の販売／YOU-YOUボード

啓発・交流・学び

会議室の貸出／書籍・資料の閲覧／講座の開催／ちびっこスペース／ビジュアルコーナー

◆施設の様子



▲子どもによる工作の展示



▲リサイクル家具の展示・販売



▲リサイクル部品の販売

◆参考になったポイント

- ・粗大ごみとして清掃工場に届いた家具類の中で使用可能なものをきれいに清掃・補修して展示販売を行っている。
- ・家具修理は、シルバー人材センターに委託している他、一部を障害者の就労の場に行っている。
- ・家庭で不要になった陶磁器製食器を回収し、粉碎したうえで資源の一部に利用した陶土を使った「リサイクル陶芸室」の開催やリサイクル食器の展示販売の実施している。
- ・廃品を利用した手芸・工作などの体験教室を開催している。
- ・子供を対象としたイベント、職場体験やインターンシップも実施している。
- ・子供や親からの評価が高い。
- ・広いバックヤードがあった。
- ・人が立ち寄りやすい立地、立ち寄りやすい空間であった。
- ・運営団体は、センター運営の受託応募を契機にNPO法人格を取得。
- ・月1回、一部事務組合と会議を開いて情報を共有し、連携を取っている。

(3) 町田市リサイクル文化センター

◆施設概要

- ・昭和 57 年開設
- ・所在地 町田市下小山田町 3160
- ・開館時間 9:00～16:30
- ・休館日 日曜・祝日
- ・管轄 町田市

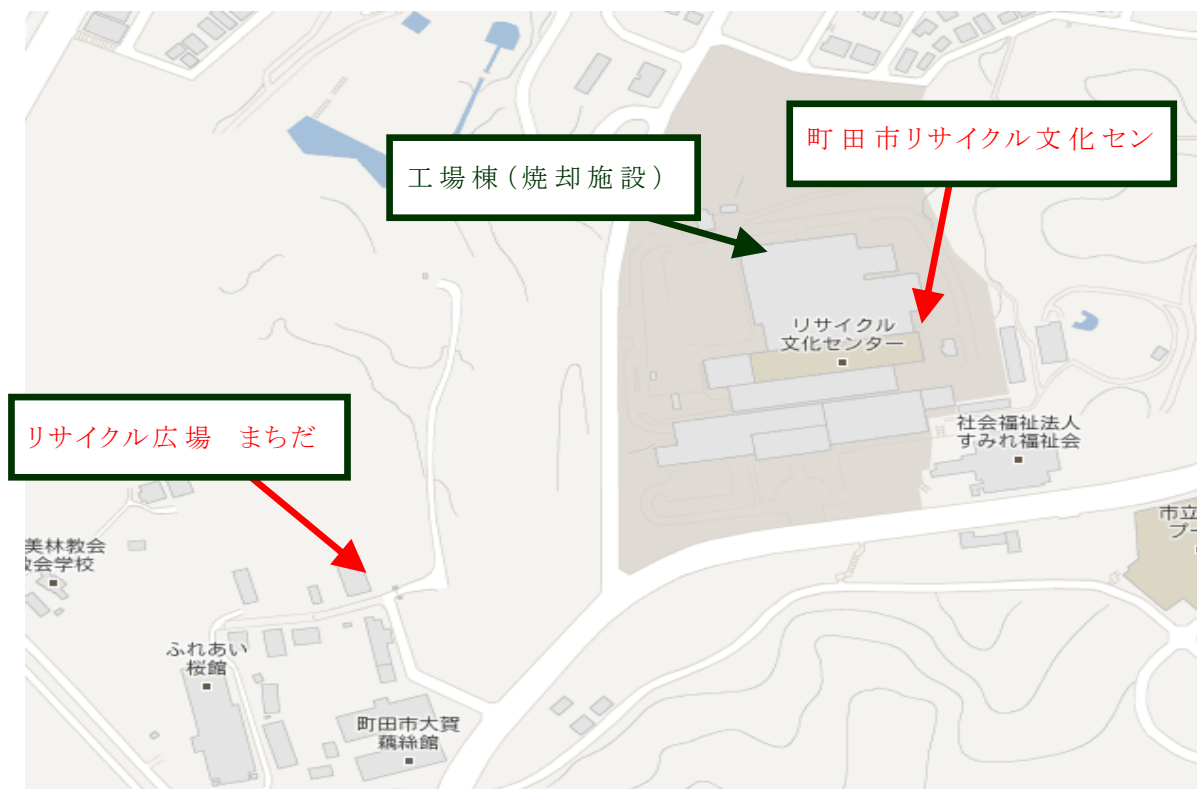
※清掃工場併設

※「リサイクル広場まちだ」は平成 20 年



◆設置目的

ごみの焼却及びリサイクル品を展示・販売する施設。資源のリサイクルと余熱利用を図りながら、市民参加によるごみの減量・資源化を推進し、環境にやさしいまちの実現を目指すため。



◆運営

- ・運営主体 町田市リサイクル公社、町田市シルバー人材センター（家具の補修・販売等）
- ・運営理念 ごみ収集の有料化・戸別収集やリサイクル広場などを通して、ごみから資源へとの市民の意識改革が進んでいるが、さらに環境保全・エコライフの推進を加えて、広範な市民の理解と協力のもとに、町田市を環境先進都市にすることを目的とする。

◆施設の機能

リサイクル文化センター

粗大ごみの修理、再生、販売／資源物の拠点回収／イベントのごみ減量の取り組みの支援（相談、分別ステーション備品の貸出、リユース食器・リサイクル容器の斡旋、回収した資源等の引取り及び無料持込）

リサイクル広場まちだ

トイレットペーパーと交換出来るポイントカードの発行（資源収集対象外の廃食用油・陶磁器など市指定の品目を持ち込むとポイントが与えられる）／「くるくるコーナー」でのリユース品の展示

福祉との連携

- ①社会福祉法人が施設内で障害者の就労支援事業所『アールフィールド』を運営。寄付された家具・衣類・雑貨・自転車等をリサイクルし販売。障害者に社会参加の場と機会を提供している。
- ②隣接する重度障害者通所授産施設『花の家』では、余熱を利用した温室での植物栽培や陶器作りなどのプログラムがある。

◆施設の様子



▲資源物の回収ボックス

▲リサイクル家具の販売

▲持参した陶磁器
を別のものと交換

◆参考になったポイント

- ・粗大ごみとして清掃工場に届いた家具類の中で使用可能なものをきれいに清掃・補修してから展示販売を行っている。
- ・白泡トレイ、ペットボトル、牛乳パックの回収を行い、中間処理を実施。
- ・広いバックヤードがあった。
- ・作業スペースは採光・通風の確保が必要。
- ・家具の売り上げは年間 1,800 万円ほど。
- ・年間 12,000 人ほどが来場している。
- ・陶磁器、ガラス、ペットボトルの蓋など町田市が再資源化できると指定した物品について回収し、資源化を行うとともに食器類なども展示している。

(4) エコプラザ用賀

◆施設概要

- ・平成 18 年開設（学校給食センター施設を再利用）
- ・所在地 世田谷区用賀 4-7-1
- ・開館時間 9:00~17:00
- ・休館日 月曜日、年末年始
- ・管轄 世田谷区



◆設置目的

区民のごみ減量とリサイクルへの意識の醸成を図るため。

**エコプラザって
どんなところ？**

エコプラザ用賀
もったいないを知り、リサイクルの大切さを実感するところ

**暮らしに役立つ
情報がいっぱい！**

① 不用品情報ボード
「譲ります」「譲ってください」の情報を用紙にご記入いただき、2か月間掲示します。希望のものがあれば直接連絡を取り合ってください。
家庭内の不用品を活用してほしい方から必要な方へ、情報を交換する掲示板です。

② 展覧・拠点回収コーナー
各種パンフレット、生ごみ処理機などの展示を行っています。
牛乳パック、ペットボトル、白色発泡トレイ、食用油の拠点回収は施設開館中いつでもご利用いただけます。

③ 図書・ビデオテープの貸し出し
リサイクルや環境に関する本・資料・ビデオテープを備えています。幼児・児童向けの本もありますので、親子でゆっくりご覧いただけます。

④ 粗大ごみ中継所見学コーナー
粗大ごみを大型車に積み替える様子が窓越しに見学できます。ごみとなった家具などが目の前でバリバリとつぶされ積み替えられます。「思わず「もったいない！」の声・・・」
※粗大ごみ中継所を併設しています。

⑤ リユース(再使用)品の展示・提供
粗大ごみとして出された品物のうち、まだ使用できる家具等を展示し、希望の方に抽選で提供(一部有償)しています。

⑥ 講習室
ものを大切にするための講座・講習会を行っています。

⑦ 修理室・ストックヤード
中継所に運び込まれた粗大ごみを選別し、リユース品に提供できるよう、洗浄、修理します。職人わざでみごとに再生されていきます。

家具の修理講座 おもちゃの修理講座

◆運営

- ・運営主体 NPO 法人せたがや環境推進 21（ごみ関連の活動をしていた区民を中心に設立。運営人数は 50~60 名。）
- ・運営形態 管理委託
- ・運営予算 区からの委託費が約 2,000~3,000 万円/年
- ・運営理念 広く一般区民・青少年を対象として地球とからだに優しい生き方、暮らし方を目指す地域社会をつくるために、不用品販売、資源回収、環境教育、環境学習、環境への普及、啓発、情報収集事業を行うことで、生活環境と環境保全が協調され、より環境問題への意識改革を推進し、人間として豊かな社会の実現に寄与することを目的とする。

◆施設の機能

リサイクル・ごみ減量

不用品情報ボード／粗大ごみとして出された品物の展示・提供（抽選、一部有償）
／小型家具頒布／資源の拠点回収／フリーマーケットの開催

学び・啓発

講座の開催（家具の修理講座、おもちゃの修理講座など多数）／書籍・資料の閲覧・貸し出し

◆施設の様子



▲中継所見学コーナー
コーナー



▲ストックヤード



▲展示・提供

◆参考になったポイント

- ・女性がいきいきと活動していた。
- ・主婦の視点や感覚が活かされていた。
- ・リユース品は譲り受けた人が値段をつけるプログラムがよくできている。
- ・見学者コースがよい。
- ・家電のリユースについてはすべて自己責任とし、区やエコプラザは関与していない。
- ・インターネットに頒布品目リストをのせている。
- ・女性が力を合わせて運営しており、地域の将来につながると感じた。
- ・提供したリサイクル家具の重量を記録しており、ごみ減量の効果が数値で分かる。

(5) IID 世田谷ものづくり学校 (IKEJIRI INSTITUTE OF DESIGN)

◆施設概要

- ・平成 18 年開設
- ・所在地 世田谷区池尻 2-4-5
- ・開館時間 11:00~21:00
- ・休館日 月曜日
- ・管轄 世田谷区



◆設置目的

2004 年 3 月で統廃合となった「世田谷区立池尻中学校」を再生する次世代モデルの廃校跡地再生プロジェクトとして設置。



世田谷ものづくり学校 館内マップ
IKEJIRI INSTITUTE OF DESIGN MAP



- カフェ Cafe
- IID センター IID Seibei
- パブリックスペース Public Space
- 展示スペース Exhibition Space
- ワーキングスペース Working Space
- 1 受付 Information
- 2 展示室 Presentation Room
- 3 会議室 Meeting Room
- 4 出館用トイレ Toilet
- 5 男性用トイレ Men's Toilet
- 6 多目的トイレ Multi-use Toilet

※ IID 館内での注意事項
Please smile only. No photography on the premises.
Please see for permission before taking photographs on the premises.

- 1-1 撮影禁止のエリア
- 1-2 撮影禁止の時間帯
- 1-3 撮影禁止の場所
- 1-4 撮影禁止の人物
- 1-5 撮影禁止の行為
- 1-6 撮影禁止の機材
- 1-7 撮影禁止の服装
- 1-8 撮影禁止の持ち物
- 1-9 撮影禁止の行動
- 1-10 撮影禁止の場所
- 1-11 撮影禁止の時間帯
- 1-12 撮影禁止の場所
- 1-13 撮影禁止の人物
- 1-14 撮影禁止の行為
- 1-15 撮影禁止の機材
- 1-16 撮影禁止の服装
- 1-17 撮影禁止の持ち物
- 1-18 撮影禁止の行動
- 1-19 撮影禁止の場所
- 1-20 撮影禁止の時間帯
- 1-21 撮影禁止の場所
- 1-22 撮影禁止の人物
- 1-23 撮影禁止の行為
- 1-24 撮影禁止の機材
- 1-25 撮影禁止の服装
- 1-26 撮影禁止の持ち物
- 1-27 撮影禁止の行動
- 1-28 撮影禁止の場所
- 1-29 撮影禁止の時間帯
- 1-30 撮影禁止の場所

1F

- 101 IID Gallery
- 102 イコロンコンディション
- 103 recette
- 104 105 Meeting Room 1,2
- 106 近世美術研究所
- 107 GO SLOW ゆっくりとCAFE
- △ 108b mybox
- 109 スノードーム美術館
- 110a GOOD DAY JAPAN
- 110b Presentation Room
- 111 丸屋の森研究所
- 112 numabooks + 112Asachika
- 113 IID office
- 114a @Stone
- 114b R自転車集団
- 116 自由大学
- △ 117 Natcha's Workshop
- 118 滝石創業集株式会社/自由大学
- 119 digitalstage inc.

2F

- 201a EXARIECO
- 201b news kkt
- 201c Azhal communications
- 202 株式会社PRICE-UP
- 204 青木建築設計事務所
- △ 205a Media Design Penguin
- △ 205b 株式会社島経済新聞社
- △ 205c Big!
- △ 205d HIRIBA
- 206 eairip LABO
- 207 株式会社スクーリングパッド
- 209 株式会社WebLife
- 210 OTOSO
- 211 studio

3F

- 301 2-A教室
- △ 302b デザイン
- △ 302c MDG Atelier
- 303 THE DIRECTORS GUILD
- 304 shiro
- 305 orb-i CLASS 1A
- 306 株式会社カゲン
- 307 マシンブランド
- 308 株式会社アクティブ・シネクラブ

世田谷ものづくり学校
世田谷区池尻2-4-5
TEL 02-3481-4011
FAX 02-3481-1012
www.iid-oi.com

● 開館時間 11:00~19:00
● 休館日 月曜日
● 入館料 無料
● 貸室料 相場の1.5倍程度
● 駐車場 あり
● 近隣のバス路線はあり、徒歩で
館内へのアクセスは簡単です。

◆運営

- ・運営主体 株式会社ものづくり学校（資本金 1,000 万円）が 2004 年 10 月から管理・運営。株式会社ものづくり学校の正社員は、役員含め 10 名。そのほかアルバイト数名。
- ・運営資金 世田谷区から校舎建物を借り（定期借家契約）、入居者へサブリースすることで収入を確保している。借家料は 1,000 万円/年であり、区からの助成はない。
- ・運営状況 45 あるスペースのうち 14 がインキュベーション（創業支援のためのスペース）、30 が一般事業者向けで、相場より若干高めの家賃設定にも関わらず、ほぼ満室の状況が続いている。（1 スペース 12 万円/月+共益費 2 万円/月）

- ・運営理念 「学び・雇用・産業」の再生といった視点から、民間の活力を生かした新しい手法により、これらに取り組み、新たなコミュニティづくりや地域の活性化を目指す。

◆施設の機能

学び・創業・地域活性

教室スペースを「デザイン・建築・映像・食・アート・ファッション」など、さまざまな分野のクリエイターにワーキングスペースとして提供／子供から大人まで誰もが参加できるワークショップなど多種多様なプログラムを開催／創業支援／カフェの運営／地域や小中学校との連携／学びの場の提供（自由大学など）

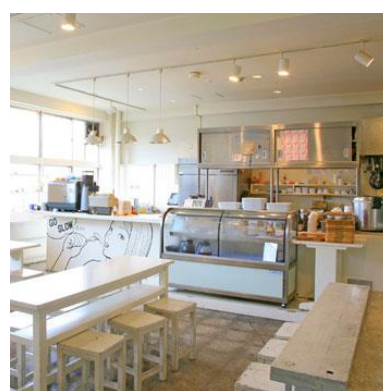
◆施設の様子



▲廊下（活動の展示空間）



▲エントランス（受付・ギャラリー）



▲カフェ

◆参考になったポイント

- ・地域に開かれた施設。当初は地域に不信感を持たれていたが、事業・活動を通じて徐々に浸透。
- ・「ものづくり交流会」を年5回開催し、近隣住民との交流をはかっている。
- ・地域の活性化や課題解決に積極的に取り組んでいる。一例として、近隣の商店会活性化への協力
や、池尻まちこま会（地域の困りごとの解決策を検討する会で、地域包括支援センターの呼びかけ）への参加など。
- ・定期的に映画上映会を開催、高齢者の引きこもり防止の狙いもある。
- ・ワークショップは年間 350 本以上開催し、ボランティアによって運営が支えられている。
- ・来場者数は年間5万人以上で区民の利用はその4割程度。
- ・広報誌（IID ペーパー）を渋谷・原宿などのショップを中心に配置。
- ・元は住居専用地域だったが、ものづくり学校開校に合わせて用途変更。
- ・カフェは不採算だが、多くの人に訪れてもらう「きっかけづくり」を目的として、直営で運営。
- ・ものづくり学校の存在により、地域にクリエイターが集まってきている。
- ・これまでのノウハウを活かして、離島（隠岐の島）の活性化にも取り組み始めている。

(6) アーツ千代田 3331

◆施設概要

- ・平成 22 年開設
- ・所在地 千代田区外神田 6-11-14
- ・開館時間 10:00~21:00
- ・休館日 年中無休
(ギャラリー・カフェは火曜定休)
- ・管轄 千代田区



◆設置目的

千代田区文化芸術プラン(文化芸術の振興を通じて区民の豊かな生活を実現し、優しさのあふれる美しいまちを創ることを目的とした千代田区文化芸術基本条例に基づく具体的な行動計画)の重点プロジェクト。統合により廃校となった「千代田区立錬成中学校」の校舎を改修し再利用。

1F



メインギャラリー

期間ごとに展覧会を行う3331のメインギャラリー。チケットが必要な場合は、入り口前の受付にてご購入ください。入場料は展覧会ごとに異なります。

カフェ Food Lab 3331

ランチやデザートに、お茶タイムに最適なカフェ。作品の展示や、料理家たちとのコラボレーションによるイベントを行うことも。(営業時間:11:30~21:00L.O.)

コミュニティスペース

休憩場所としても利用できるスペース。イベントやワークショップなども開催されます。(イベント開催時には貸し切り、有料となる場合があります)

ラウンジ

誰でも無料で利用できる休憩スペース。パーティーやトークイベントを行うこともできます(イベント開催時には貸し切り、有料となる場合があります)

かえるステーション

アーティスト・観客の「kaekko」プロジェクトにより子どもたちから集められたおもちゃを「かえっこ」して遊んだり、素材として利用するオープンな場所。

3331 ギャラリー

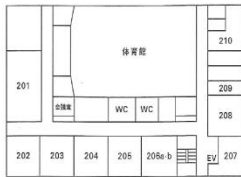
新進気鋭のアーティストによる作品をより身近に鑑賞、気軽に購入することができます。ギャラリー・鑑賞形式でアーティストを紹介しています。

3331 ライブラリー

国内で発行されている無数のフリーペーパーから、各地のアートのカルチャーシーンを感じられるものをセレクト。イスに座ってゆっくり閲覧できます。



2F



会議室

10人までの小規模な打ち合わせや、委員会での利用に最適なミーティングスペース。

201・202 アキバタマビ 21

多摩美術大学が運営する、若手アーティストのための作品発表の場。多摩美術の卒業生が、互いに切磋琢磨しながら活動しています。

203 Gallery Jin Projects, Gallery Jin Esprit+ [Gallery Jin]

今年生まれつづめる芸術家を紹介しているギャラリー。「Project」でオンラインギャラリーアートをも、「Esprit+」で展覧会を開催し、あやしい現物を扱っています。

204 +81 Gallery+Lab

国内外のアーティストによる作品を展示紹介するほか、作品の制作・販売・海外展開までのサポートを届け、若手アーティストの育成を図るプロジェクトスペース。

205 island MEDIUM

群像を通して人と人を結び、アートを社会に届けるべく活動をスタートさせた island JAPAN。東京での情報発信拠点として3331内に「island MEDIUM」をオープン。

206a ぞろぞろアートセンター 東京

秋田県大館市で始まったアートプロジェクト「ぞろぞろ」の東京での活動拠点。アートだけでなく、秋田や地域活動等の情報発信・交流のための多用途スペースです。

206b アーティスト・イニシアティブ・コマンドN

1998年からオルタナティブなアートプロジェクトを企画/実現するアーティストグループ。3331では地域社会とアートの新しい関係を発信していきます。

207 St.ART+ [SMN Office]

クリエイティブ系学生団体「St」の制作や「映画甲子園」、「金沢甲子園」、「アニメ甲子園」などの企画大会を主催するSMNの活動スペースと情報発信拠点。

208 A/A gallery A/Ashop [エイブル・アート・ショップ]

NPOエイブル・アート・ジャパンによる、障害のあるアーティストの作品を中心に販売する日本初のコマンド・ギャラリー。アートグッズも販売。

209 nap gallery

ユモアのあるコミュニケーションができる空間を目指し、客員を中心に扱うギャラリー。この空間でしか表現できない特別な展示を行っています。

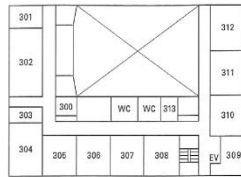
210 株式会社一貫堂

文員・和菓子・絵画におけるつづみやサイト及び販売サイトの運営を行っています。

体育館

約18m、奥行約35mの広大な体育館。クリエイティブスペースとしてもアレンジできます。

3F



300 INE.G.A.D [イネガフ デザイン]

アートディレクター・建築設計が代表を務めるデザイン事務所。広告を中心に企画からデザインまでトータルに手がけます。

302 東京文化発信プロジェクト ROOM302

東京の魅力や地域・市民の参加により創造・発信する「東京アートポイント計画」の一環として、アートプロジェクトを研究する「Tokyo Art Research Lab」を展開。

303・304 g3 [トリゾルジ]

演劇・クリエイティブディレクターである建築家の建築学校「superschool」、「gallery」、実験室「editroom」が融合したプロジェクトルーム。

305 ASYL

3331のトータルデザインを手がけるアートディレクター・体験感覚が面白いクリエイティブスペース。企画・ディレクション・デザインをトータルに行います。

306 ポストワーク

伊藤ガビンをはじめとするプロデューサー、プログラマー、エディター、デザイナーなどによって構成。書籍、Web、映像、展覧会、イベントなどの企画・制作を行います。

307 スイッチサイエンス

遠征サイトでも電子工作用品を販売し、電子工作を趣味とする人からプロまで、たくさんの人から支持を受けるスイッチサイエンス。

308 日々々の明々後日

アーティスト・日比野亮彦が各地で展開するアートプロジェクトのためのオルタナティブスペース。さまざまな機能、人々が日常の中で出会うことにより、明日・明後日・明々後日に続く新たなアートの展開を促す。継続ワークショップも開催。

309 アータスーンソサイエティ

建築・都市再生プロデューサー・清水貴治が代表を務めるコンサルティングファーム。数にも限られたアートスタジオ。アート・社会・福祉を切り口に多彩な議論やワークショップを開催しています。企画提案も歓迎!

310 ストリートメディア

デジタルサインとモバイルを駆使させた情報流通で人を動かし、街を活性化させるエリアキャスティング事業に取り組むストリートメディアの活動スペース。

311・312 シェアオフィス

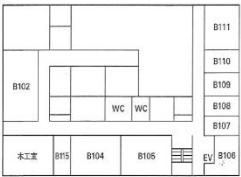
複数の入居者が共有するスペース。

313 はんだづけカフェ

スイッチサイエンスが運営する、電子工作のための道具や場所をシェアすることができるオープン・スペース(電子工作の部品は各自持ち込み)。

※「カフェ」という扱いはありません!

B1F



B102 ARTS FIELD TOKYO スタジオ

3331のアーティスト「ARTS FIELD TOKYO」スタジオコース専用のシェアスタジオ。展覧会など長期レンタルができるスペース。多目的なイベントでの使用もできます。

B105 ARTS FIELD TOKYO オープンスペース

3331のアーティスト「ARTS FIELD TOKYO」のオープンスペース。アーティスト、クリエイター、キュレーターなど、あらゆる分野で活躍する方々を議論し、お互い支えるシナジーや、スクールメンバーによる展示を開催すること。

B106 RENSEI PRINT PARK by seikosha

※なく創立100周年を記念する印刷会社「株式会社印刷社」が企画運営するスペース。展示やワークショップなどの開催が出来ます。

B107 Bambinart Gallery (バンビナート ギャラリー)

現代美術専門の企画ギャラリー。ギャラリースペースでは、若手アーティストを中心とした展覧会を開催しています。

B108 レジデンススタジオ

レジデンスアーティストが使用するスペース。

B109 CISHE ANNEX

国際的なアーティストの企画、交流、ワークショップ事業など行う事務所。事務所前の広場にはアーティスト・イン・レジデンスの公募、新着情報も紹介。

B110 sagachou archives

「在留アーティスト・スペース」の活動と資料、作品のアーカイブスペース。展示し、語り、アーカイブをシェアするということらしい試み。

B111 エイブルアート・スタジオ [エイブル・アート・ジャパン]

数にも限られたアートスタジオ。アート・社会・福祉を切り口に多彩な議論やワークショップを開催しています。企画提案も歓迎!

準倉庫

イベント等の仕込みや控え室として利用できるスペース。冷蔵庫、ガスコンロ、電子レンジなどが備わっています。

屋上

3331屋上オーガニック茶室

運動場として使われていた屋上は、ひと理ずつのレンタル茶室に、一部公園によって決定した利用者に貸し出しをしています。

◆運営

- ・運営者 合同会社コマンド A (アーティストが中心となり本事業受託のために設立)
- ・運営資金 開設当初工レベータ・ウッドデッキの整備費として千代田区からの助成を受けた以外、独立採算。メイン収入は 2・3 階フロアのサブリース。施設は千代田区からの定期借家 (5 年)。

- ・運営理念 「千代田の伝統文化現代芸術文化と共に生きるアートセンター」、「国際都市千代田区の求心力を軸に国内外の地域力を繋ぐアートセンター」、「まちに開き、区民と未来の文化を創り出す参加交流型のアートセンター」の3つを基本方針とする。

◆施設の機能

クリエイター支援・学び・コミュニケーション

教室スペースのサブリース／ワークショップの開催／屋上菜園の貸出／カフェ設置／地域や小中学校との連携

リサイクル・ごみ減量

かえるステーション（かえっこ）／藤浩志氏との連携による展示／デザイナー・クリエイター・民間事業者との連携による廃棄素材を用いた作品等の展示・販売

◆施設の様子



▲エントランス・受付



▲メインギャラリー



▲カフェ



▲ギャラリー



▲オフィス系スペース

◆参考になったポイント

- ・1年を通して、様々な展覧会やイベント、ワークショップを実施。アートスクールも開講している。
- ・施設内は一部の展覧会・イベント等を除き、自由に見ることができる。
- ・廃校利用に関し、何を残すべきかを考えて学校の雰囲気を残している考え方が参考になる。
- ・階段デッキにつながる開放的なエントランスなどの設えが参考になる。
- ・廃品を利用したアート作品など、創造性の高さが評価できる。
- ・運営の公募時から区から地域との関わりを求められており、ワークショップやアートスクールを始めとして地域との関わりを重視した事業を積極的に展開。

(7) ^{みやこ}京エコロジーセンター（京都市環境保全活動センター）

◆施設概要

- ・平成 14 年開設
- ・所在地 京都市伏見区深草池ノ内 1 3
- ・開館時間 午前 10 時～午後 9 時
(1・2F 展示室は午後 5 時まで)
- ・休館日 木曜、年末年始
- ・管轄 京都市



◆設置目的

1997 年に開催された地球温暖化防止京都会議において京都議定書が採択された。これを記念し、環境学習活動・環境保全活動の拠点として開設された施設。

◆運営

- ・運営者 財団法人京都市環境事業協会（京都市の財政援助団体、指定管理者）
- ・運営資金 169,169 千円（うち人件費 76,490 千円、2012 年度）
- ・コンセプト 見て、触れて、感じる「体験型展示」／建物全体がエコ展示／パートナーシップによる学習と活動／みんなにやさしい施設をめざして
- ・ボランティアの活用 「エコメイト」と呼ばれる環境ボランティアが約 50 名強が展示の説明やイベントの企画・運営の支援などを行っている。3 年の任期制とし、任期終了後は地域で環境活動の輪を広げるリーダー的な役割を担っていくことを目標としている。エコメイト卒業生は「京エコサポーター」として登録することができ、約 150 名の登録がある。

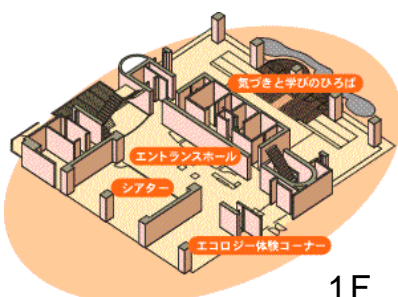
◆施設の機能

1F 「気づいて」 エントランスホール、シアター、エコロジー体験コーナー、常設展示

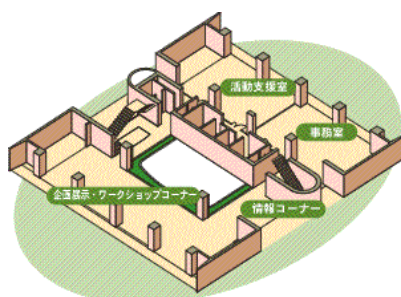
2F 「学んで」 企画展示・ワークショップコーナー、事務室、活動支援室

3F 「活動する」 交流コーナー、環境図書コーナー、こどもひろば、リサイクル工房、

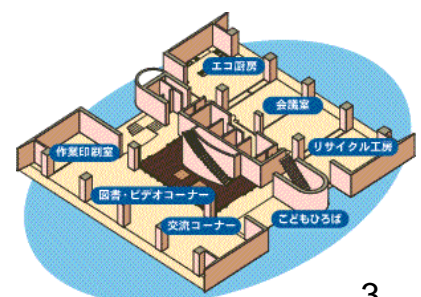
エコ厨房、会議室、印刷作業室



1F



2



3

◆施設の様子



▲箱を開けながら学習できる展示



▲太陽光発電パネル



▲放射冷暖房のチューブ



▲屋上のビオトープ



▲照度センサー・エコ虫



▲環境図書コーナー

◆参考になったポイント

- ・施設の目標を「人づくり」に設定し、「エコメイト」と呼ばれるボランティアを3年の任期つきで活用。エコメイト卒業生が各地域で環境活動を推進することにより、京都市全体へ環境活動の輪を広げていくことを狙っている。
- ・ターゲットを専門家以外に絞り、「むずかしいことをわかりやすく伝える」ことを目標とした体験型の展示を行っている。
- ・展示はエコメイトが解説することを前提としており、コミュニケーションを重視している。
- ・「建築自体を展示物」とし、環境負荷低減のメリットが小さい設備も見学者に紹介するためにあえて設置し、エコ虫と案内板による解説を行っている。しかし、実験的に設置した特殊な設備も多く、メンテナンス費用は高い。
- ・ビオトープ、畑、田んぼなどイベントやワークショップなどの活動とリンクした空間がつけられている。
- ・「えこせん」などスタイリッシュな広報誌を発行し、新聞折込みで配布しているほか市営地下鉄31駅に設置している。チラシで京エコロジーセンターの存在を知った利用者が4割を占める。(アンケートによる)
- ・イベントは「きっかけづくり」と捉え、環境問題に無関心な人にも関心を持ってもらえるよう、多様な切り口で開催している。
- ・指定管理期間が4年であり、中長期の視点に立った計画づくりや運営に難しさがある。



(8) アップサイクルの事例

1) 「藤浩志の美術展」

◆概要

クリーンセンターのイベントでも実施している「かえっこ」の発案者・藤浩志氏の美術展(平成24年7月15日～9月9日、アーツ千代田3331)を視察。藤氏は、「かえっこ」を始めとした廃棄物を利用した活動に関して「環境省循環型社会功労者表彰」を受けている。

この展覧会では、「かえる(変える/還る/換える/買える)」をキーワードに、13年続く「かえっこ」により集まった約5万ものおもちゃを素材とし、作品展示やワークショップを実施。そのほか、プラスチックや針金など、これまで藤氏が生活や活動のなかで収集した膨大な数の素材や作品、各地で連鎖・発生してきた地域活動の紹介、入札形式による作品販売(サイレント・オークション)もあり。

	
青森ねぶた祭りのねぶたの廃材(針金と和紙)で作られた作品「飛龍」(全長13m)	エントランスに構える作品「玩具・ザウルス」

◆感想

- ・ファーストフード店などのおもちゃを使った作品は、大量廃棄型の今の社会に対する痛烈な風刺と感じた。
- ・作品には想像以上の迫力を感じた。

2) 廃材を利用したデザイナーズ家具 (ピート・ヘイン・イークの作品)

◆概要

アーツ千代田 3331 へ向かう視察行程において、インテリアセレクトショップ「CIBONE 青山」を訪れ、廃材を素材として製作した家具で有名なオランダのデザイナー、ピート・ヘイン・イーク (Piet Hein Eek) 氏の作品を鑑賞した。

氏は優れたデザイン力・技術力によって廃材が持つ素材としての魅力・可能性を引き出し、素朴な美しさを持つ多くの作品を生み出し、高い評価を得ている。

◆感想

- ・シンプルで機能的な造り、デザイン、素材の風合いなど大量生産の製品にない独特な新鮮さがある。
- ・一つ一つがハンドメイドの一点物で、個性がある点が魅力的だ。
- ・作品から作者の哲学やメッセージを感じ取ることができる。新しさや完璧さを求める風潮に対して違った考え方を示してくれる。

(9) 江東区環境学習情報館 えこっくる

◆施設概要

- ・平成19年開設
 - ・所在地 東京都江東区潮見 1-29-7
 - ・開館時間 9:00～17:00
 - ・休館日 月曜日
 - ・管轄 江東区
- ※清掃事務所併設



◆設置目的

環境負荷の少ない地域社会の構築を図り、地域及び地球の環境保全に貢献することを目的として、情報の収集及び提供、講演・講座等の開催、環境学習の振興、団体（人材）の育成を行っている。また、環境問題に関する「気づき」を増やしていきたいとのコンセプトの下、わかりやすく学ぶことのできる施設を目指している。



◆運営

- ・運営主体 江東区（直営）

区職員3名、嘱託職員1名、非常勤職員4名の計8名で運営。

※施設の維持管理は併設している清掃事務所が一括して行っている。

◆施設の機能

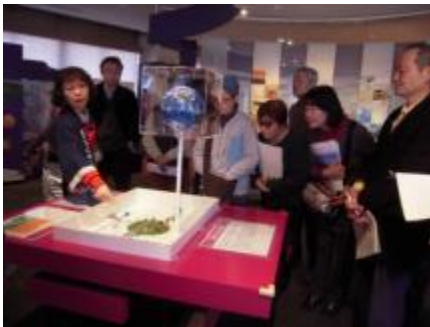
環境についての幅広い展示

全てのテーマを取り上げ、体験学習と展示学習とが相互的に補えるような学習プログラムを実施している。展示の説明はボランティアが行っている。

多岐にわたる講座やイベントの実施

さまざまな分野のスペシャリストとともに学習プログラムを開発し、多岐にわたる講座やイベントを実施。事業運営の多くは、区民ボランティアが担う。土日を中心に講座を開催。地元の環境保全団体に講座の運営を依頼。

◆施設の様子



▲身近な生活から地球規模の内容まで幅広い展示



▲物の環境負荷を学ぶゲーム



▲ごみ分別を学ぶゲーム



▲ワークショップルーム



▲環境情報コーナー



▲江東区や環境を題材としたボードゲーム

◆参考になったポイント

- ・エコサポーター（ボランティア）が展示案内で活躍している。
- ・ボランティアが参加する仕組みが確立されている。ボランティア養成講座を行い、講座の修了生に声をかけ参加してもらったりしている。
- ・講座の企画も江東区で行っているが、運営については各講師に任せている部分が多く、地元で活動する団体が活躍している。
- ・講座、イベントの参加者は江東区民が多いが、見学に関しては団体が多く地方からの修学旅行生などが自主的にコースに組み入れて見学に来ることも多い。

(10) ナカダイ 品川ショールーム

◆施設概要

- ・平成 25 年開設
 - ・所在地 東京都品川区南品川 2 - 4 - 5
NAビル9階
 - ・開館時間 11:00~19:00
 - ・休館日 土曜日・日曜日
 - ・管轄 株式会社 ナカダイ
- ※産業廃棄物処理業者事務所併設



◆設置目的

廃棄物を素材に新しい価値を創るモノ・ファクトリーの一環としてのマテリアルライブラリー。前橋の工場に加え、平成 25 年に品川ショールームがオープンした。



◆運営

- ・運営主体 株式会社 ナカダイ
- 品川ショールームは自社本社ビル内に設置

◆施設の機能

廃材の販売

廃材をマテリアルとして販売している。

前橋工場では、廃材を活用したワークショップなども開催している。



▲ショールームの様子



▲廃材は種類別にストックされ、グラム単位で販売されている。

◆参考になったポイント

- ・廃材もマテリアルと捉えると、色々な可能性を感じる。
- ・ストックの方法、見せ方が参考になった。

(11) 東京ガス 環境エネルギー館

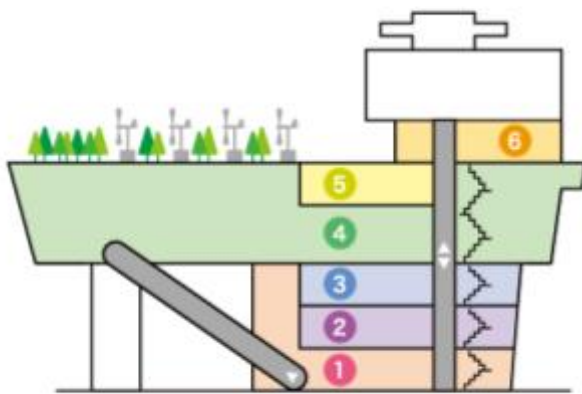
◆施設概要

- ・平成10年開設（平成26年3月閉館）
- ・所在地 神奈川県横浜市鶴見区末広町
1-7-7
- ・開館時間 9:00～17:00
- ・休館日 月曜日
- ・管轄 株式会社 東京ガス



◆設置目的

エネルギーや地球環境問題に関する次世代教育支援活動を行うために設置。特に子どもを対象に、地球環境問題に関する正しい知識を身につけるための企業館として開設し、教育関係者や地域住民に活用されていた。しかし、駅からも遠く、立地上の制約があることや、施設の老朽化に伴い多額の修繕費用がかかることなどから、閉館することとなった。閉館後は、豊洲駅近くにある「ガスの科学館」に「環境エネルギー館」が担っていた役割を統合させる。



6F	屋上ビオトープ/ 休憩室	♿ ♻️ 📞 🚻 ♿
5F	ワークショップルーム	
4F	展示室	♿ ♻️
3F	スタッフルーム	
2F	環境情報センター	♿
1F	受付・ エントランスホール	♿ ♻️ 📞 🚻 ♿ + ♻️ ♻️

◆運営

- ・運営主体 東京ガス株式会社

◆施設の機能

参加体験型の展示

環境エネルギー館の展示物は、触って動かすことができるハンズ・オン方式をとっており、解説文などの文字表記は最小限にとどめている。

インタープリター制度

展示物やプログラムをきっかけに見学者の感性を刺激し、ともに考えることで環境問題への理解を深めていく手助けをする案内人「インタープリター」が展示について説明を行っている。

環境に配慮した設備

建物自体も展示物との考えの下、光・風・水・緑・土など自然の力を最大限に活用している。都市ガスを用いた発電方法の燃料電池と、廃熱の有効利用を実現するコージェネレーション・システムを利用するなど、環境への負荷を極力少なくすることに務めている。

◆施設の様子



▲インタープリターによる
解説

▲水循環を学ぶ装置

▲屋上ビオトープ

◆参考になったポイント

- ・目に見える展示物から、その背景にある現象について伝える、考えるきっかけを持ってもらう手助けをするインタープリターが活躍している。
- ・インタープリターは、教育関係者、造園、環境など様々な分野の出身の人材がおり、現場でのOJT研修により、経験年数を積んだベテランから若手へ伝承していった。年に数回、外部での研修も実施。
- ・小学校などの団体の見学コースについては、インタープリターが企画し、個別にプランを組み立てている。
- ・インタープリターの手作りの学習教材（ゲーム）があった。
- ・地元の横浜市へ外部講師としてインタープリターを派遣等も行っている。
- ・大規模な展示装置は魅力的ではあるが、維持管理や更新にコストがかかってしまう。

(12) 立川市子ども未来センター

◆施設概要

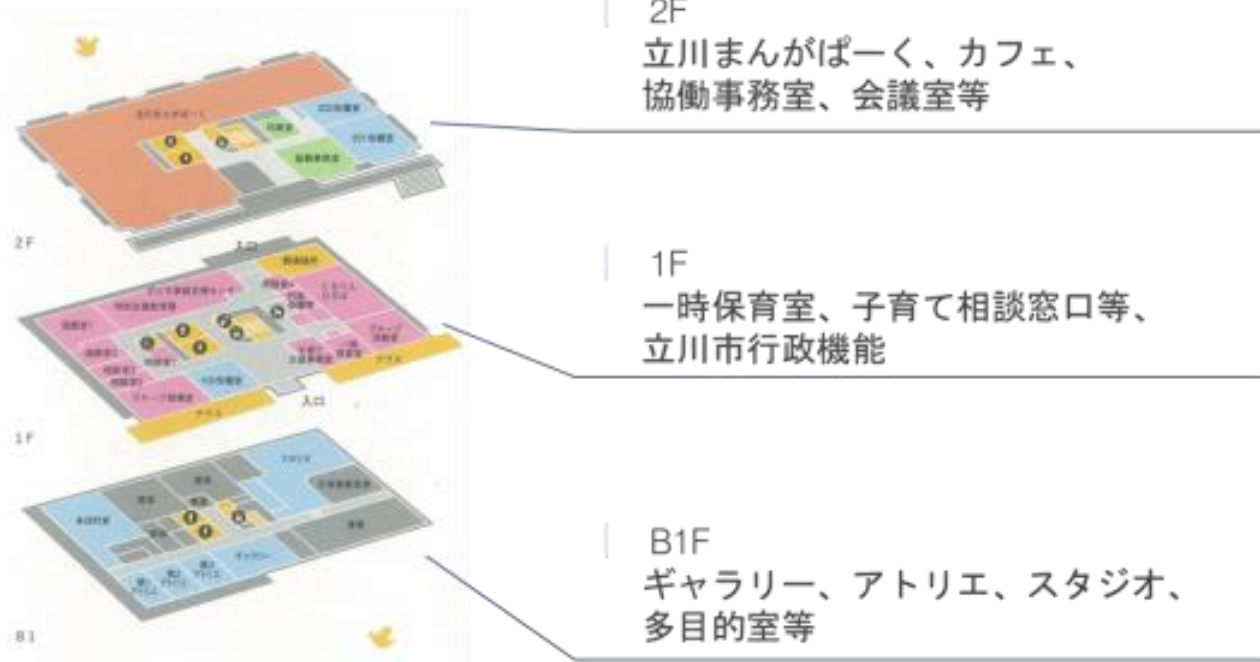
- ・平成24年開設
- ・所在地 東京都立川市錦町3-2-26
- ・開館時間 8:30~22:00※
- ・休館日 月曜日
- ・管轄 立川市

※機能ごとに開館時間が異なる。



◆設置目的

昭和43年に建設され、平成22年に機能移転した旧市庁舎の改修と、市庁舎の移転により昼間人口が減少した南口エリアの活気を呼び戻すことを目的とした設置。



◆運営

- ・運営主体 合人社計画研究所グループ（指定管理者）
- ・整備費 約8億円
- ・運営費 指定管理者委託費1億2500万円、
光熱費約1億100万円（実費精算）
- ・市の収入 約330万円（まんがばーくの入場料及びカフェの売り上げの5%、
自動販売機売上の12%、駐車場納付金）

※清掃、警備等も含め、建物の管理責任の一切は指定管理者。

※地域のにぎわい創出のために毎月開催しているイベントは指定管理者により企画、出資されている。

◆施設の機能

子育て・教育支援

子ども総合受付、発達相談、教育相談、一時預かり等

文化芸術活動の支援

会議室、スタジオ、アトリエ、ギャラリー等の貸し出し。

市民活動支援

市民活動コーディネーターによる市民活動団体の活動支援。

にぎわい創出

立川まんがばーく

行政機能の補完

錦連絡所への一部行政機能設置。

◆施設の様子



▲ギャラリー



▲子育て相談窓口



▲まんがばーく



▲外部のデッキでも漫画を読むことができる。

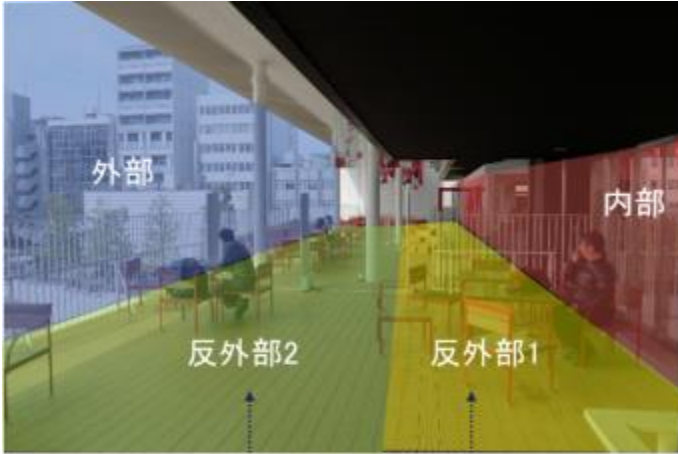


▲吹抜け空間（2階）

◆参考になったポイント

- ・指定管理者による運営、既存施設の改修が参考になった。

◆ 既存施設改修のポイント



既存建物に庇のついたテラスを新設することで、内外の一体利用が可能となっている。テラスの周りでは段階的に開放性の異なる空間が連続し、施設の多様な利用方法と、空間の豊かさを生み出している。

高い庇の下で、日の当たる開放的な空間

低い庇の下で、若干開放性が抑えられ、落ち着ける空間



エントランス部分に吹抜けを設け、1階まで自然光を導くとともに、施設の中心となる空間を作り出している。



既存の天井を撤去し、設備機器類を露出させている。壁は再塗装程度としている。



手摺の高さ、衝突防止柵等、小さな子どもの利用に配慮した設計がなされている。



旧市庁舎の外装コンクリートの質感をあえて残している。

(13)「クリエイティブリユースでアート！」展

◆開催概要

総合プロデューサーに大月ヒロ子氏を迎え、平成25年にスタートした「クリエイティブリユースでアート！」プロジェクトにて制作した先品の展示。

市内の事業所等を訪問し、廃材等を集めるワークショップを開催。そこで集めた廃材を利用して、アーティストや高校生がアート作品をつくった。

会期 平成26年1月31日から3月22日

会場 調布市文化会館たづくり

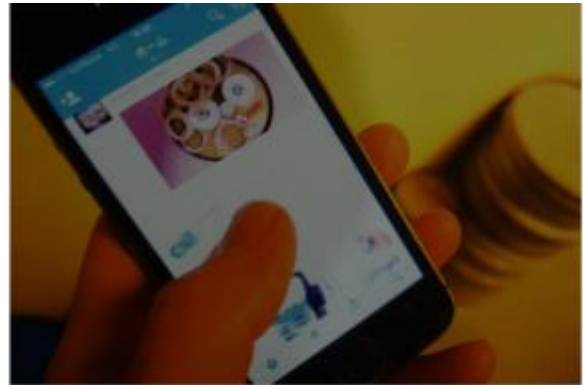
主催 公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団



◆会場の様子



作品製作を体験できるコーナー



Twitterやメールで写真を送信すると、プリントアウトした作品が展示される。



招待アーティストや、市内の高校生が製作した作品を展示。



(14) 武蔵野ふるさと歴史館

◆施設概要

- ・平成26年開設
- ・所在地 東京都武蔵野市境5-15-5
- ・開館時間 9:30~17:00
- ・休館日 金、土、祝
- ・管轄 武蔵野市



◆設置目的

武蔵野プレイスの開館に伴って閉館した旧西部図書館の施設を改修し、市の歴史学習、古文書・考古資料等の収集・保管・研究、公文書の保管を目的とする。



1F
ガイダンスエリア、展示室、
市民スペース、事務室等

2F
収蔵庫、作業スペース、会議室等

◆運営

- ・運営主体 武蔵野市

◆施設の機能

公文書館 歴史公文書の保存活用

博物館 古文書・民俗資料・考古資料等、文化財の保存、研究、公開、教育普及

市民要望 「憩いの場」として、歴史に親しむ市民の拠点

◆施設の様子



地図と映像で説明するガイダンスコーナー



地域の成り立ちを学習できる展示



近代の生活に関する展示



室外から覗くことのできる収蔵庫



生涯学習と市民交流のためのスペース。旧西部図書館で育まれたコミュニティを維持する目的もある。現在の武蔵野市に関する展示も行っている。

